

輸出基地開発計画

中国

■事業概要

| 借款契約締結年月 | 借款金額 |
|----------|-------|
| 1988年8月 | 700億円 |

中国は1978年以降、農村部における生産責任制の導入に始まる一連の経済改革と、積極的な外資導入をはじめとする対外開放政策を推進した結果、第6次5カ年計画（1981年～1985年）中に年平均10%という驚異的な経済成長を遂げ、対外貿易についても1978年に106億ドルであった貿易総額が、1985年には697億ドルにまで拡大しました。しかしながら、貿易管理権の地方への委譲が無秩序な輸入を招いたこと、老朽化が進んでいた設備更新のための輸入が急増したことなどの理由から、1985年以降の貿易収支は大幅な入超となり、これに伴い外貨準備高も大幅に減少してしまいました。そこで、1986年から始まった第7次5カ年計画では無秩序な輸入を制限するとともに、輸出貿易の外貨獲得能力の強化が重点目標の一つに掲げられました。

本事業は、このような背景の下で、日本政府の資金還流措置の一環として年次借款とは別枠で供与されたものであり、同国の金融機関を通じて「輸出基地」^(注)に設備更新・拡張、技術導入に必要な資金を供給することによって、国際競争力を高めることを目的としています。

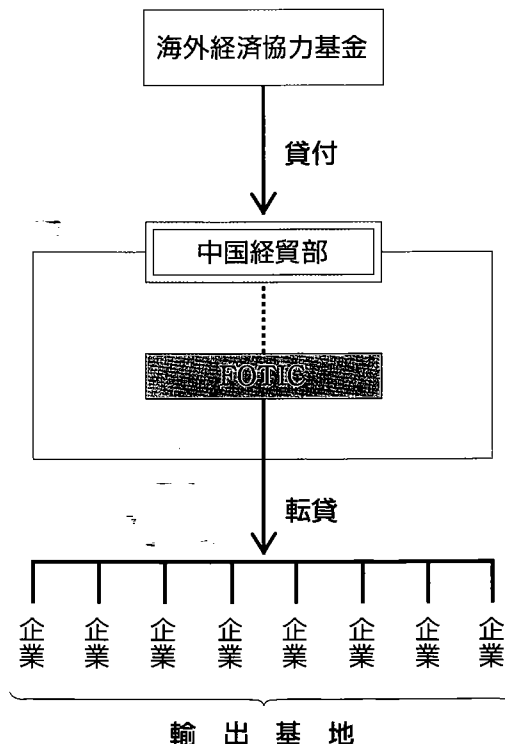
(注)輸出基地：中国では輸出専門の製造工場などのことを「輸出商品生産基地（略して輸出基地）」と言います。この「輸出基地」は中国語であり、日本語の感覚からすると工業団地のようなものを連想させますが、適当な訳語がないので、以降「」付きで表示しています。

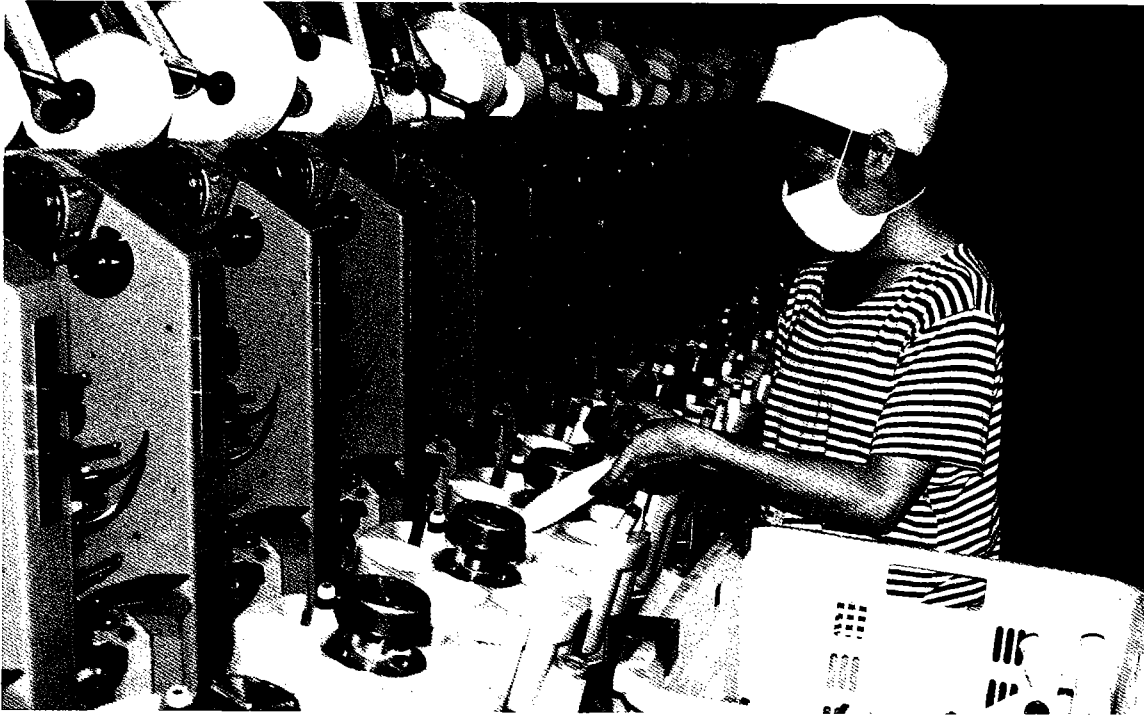
本事業は所謂ソー・ステップ・ローンの形態を

採っており、対外経済貿易部傘下の金融機関である対外経済貿易信託投资公司 (FOTIC) が実施機関となって、エンド・ユーザーである対象企業を審査し、貸付けを行っています。そして、このFOTICから各対象企業に対する主な貸付条件は下表のようになっています。

| | |
|------------|--|
| 対象セクター | 紡績・衣料／軽工業／化学薬品等の原材料／酪農製品等の農牧業 |
| 融資対象者 | 「輸出基地」の категорияに含まれる企業あるいは地方官庁であり、輸出実績については考慮される。 |
| 融資対象 | 原則として設備投資資金が対象。但し、新規に設立された「輸出基地」については初年度運転資金についても対象とされる。 |
| 融資通貨／為替リスク | 融資通貨は日本円。為替リスクは対象企業が負う。 |
| 転貸金利 | 年率3.5% |
| 償還期間 | 原則10年とし、内、据置期間を5年以内とする。 |

本事業のスキーム





▲広西壮族自治区桂林市の綿紡績工場：1958年に設立され、現在従業員数は約4,000人。同工場の製品は全て輸出されていますが、製品品質を維持するために老朽設備の更新を順次行っています。本事業による資金も老朽設備の更新に活用されています。

このような基準に従って選定されたサブ・ローンの件数は約280件となっています。これを対象セクター別に見ると、紡績・衣料が約40%を、また資金用途別では設備拡張用資金が約50%を占めています。なお、これらサブ・ローンの返済金は1992年度後半から再貸付金、即ちリボルビング・ファンドとして活用されています。

■サンプリング調査の概要

上述のように、本事業の対象となった「輸出基地」は全国各地に多数存在するために、OECFでは、本事業による資金が具体的にはどのように活用されたのかについて把握するために、サンプリング調査を実施しました。そこで、先ず全体の輸出動向を概観した上で、サンプリング調査の結果を紹介します。

本借款資金を活用したサブ・ローンの承諾件数

は約280件となっていますが、この内、1992年5月現在において既に設備投資が完了し、運転が開始されているものは165件となっています。そして、この完成案件165件の内、運転開始後1年以上を経過した148件の第1年目の輸出額について見ると、下表の通り概ね当初の計画通りの実績を上げていると言えます。

対象案件の輸出額の予想／実績比較(第1年目)

(単位：百万円)

| 件数 | 予想輸出額(1) | 実績輸出額(2) | 達成率(2)／(1) |
|-----|----------|----------|------------|
| 148 | 33,260 | 31,520 | 94.8% |

－広州市ボタン工場の場合－

近所の主婦に就業機会を提供するために設立された当該工場は(1965年設立／1991年時点：従業

員数約200人)、設立当初は国産の手動機械を使ってガラス製ボタンを生産していました。その後1983年には海外から設備を導入して輸出用プラスチックボタンの生産を開始しましたが、この設備を導入してからは製品品質が向上したことにより中国紡績品総会社の納入業者に指定され、以降毎年約30%程度の割合で生産量が増加していました。更に1987年には香港等を相手先として直接貿易を開始しましたが、この需要増加に対処するためには新たな設備拡張・更新が必要でした。しかしながら、十分な外貨を保有していなかったために、設備投資を諦めようかと考えていたところ、タイミング良く本事業の話が持ち上がり約8千万円を借り入れることによって28台のプラスチックボタン製造機械を購入し、これらの機械は1990年4月から本格的な稼働が開始されています。表1は同工場の生産高及び輸出高の推移を示していますが、本事業によって導入された機械が年間を通じてフル稼働した1991年の実績を前年度と比較してみると、生産額、輸出額とも約5割の増加となっており、設備投資の効果が十分に発現していると言えます。因みに、1991年の輸出額を米ドルに換算すると約340万ドルに相当します。設備投資完了後のボタンの生産額、輸出額、製品品質は、いずれも全国1位となっており、以前は無名の町工場であったものが、現在では地元でも有数の外貨獲得企業にまで成長しています。

(表1) ボタン工場の生産額・輸出額の推移

| | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 |
|------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 生産額 | 3,260 | 8,900 | 10,500 | 14,200 | 14,360 | 22,540 |
| 輸出額 | 2,620 | 7,120 | 8,390 | 11,354 | 11,524 | 18,140 |
| 輸出比率 | 80.4% | 80.0% | 79.9% | 80.0% | 80.3% | 80.5% |

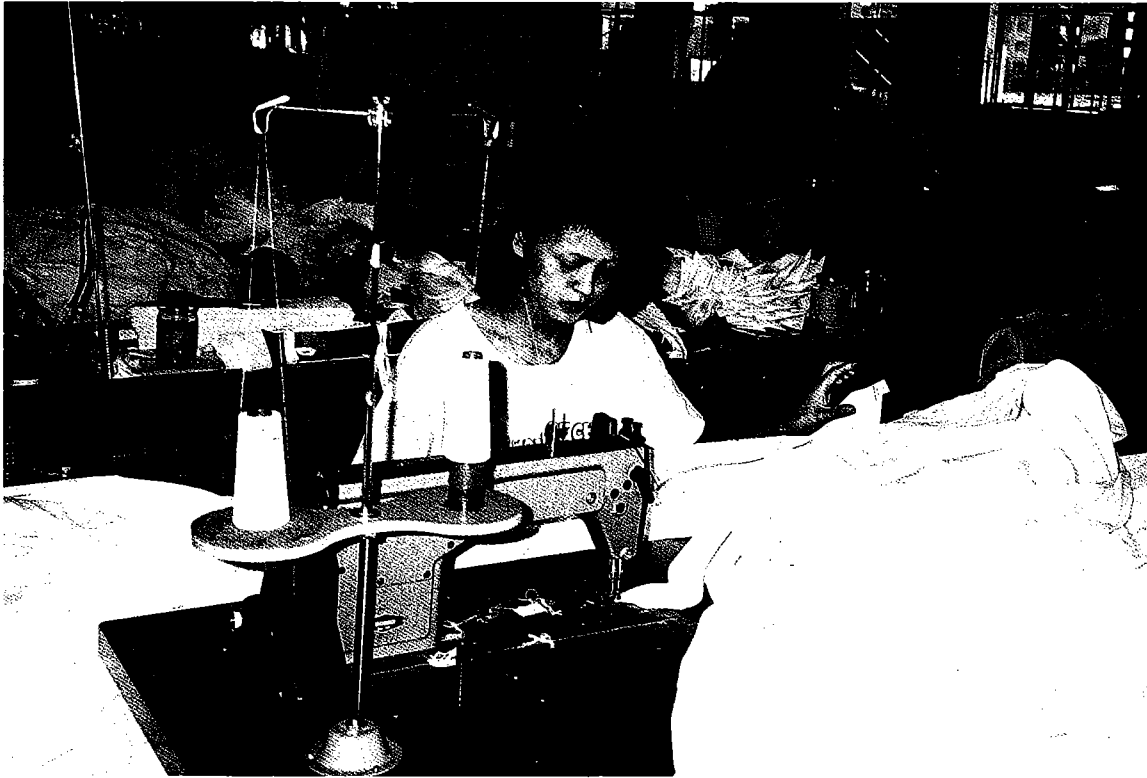
(単位：1,000人民元)

—北京市シャツ工場の場合—

1957年に設立されたこの工場は、現在、従業員数約1,600人を有する比較的大きな工場です。輸出指向型である同工場は、設備投資を行うことによって生産性の向上及び品質の向上を図り、輸出競争力を強化することを計画していました。設備投資資金については市中銀行からの借入れを考えていましたが、本事業の情報を入手し、借入条件が非常に有利であったことから、北京市の協力を得て1989年に本事業による資金の借入れを実行しました。なお、仮に市中銀行からの借入れを行っていた場合の金利は年率7～8%程度であったらうとのことでした。

同工場では約2億9千万円を借入れることによって、ミシン、生地切断機、大型アイロン、服装デザイン用CADシステム等を購入しました。これらの設備投資は順調に行われ、1990年の北京市技術改良改造プロジェクト第1位の表彰を受けています。

表2は同工場の生産高及び輸出高の推移を示していますが、1989年以降の生産は金額、量ともに減少しています。また、輸出についても金額的には増加していますが、量的には減少しています。これは副工場長の説明によると、従来は安価な製品を大量に生産していましたが、相対的に少ない設備投資額で大きな利益が期待出来るという業界事情から、新規参入が相次ぎ競争が激化したために、製品構成を見直した結果、輸出用高級製品の生産特化に経営方針を変更したことが理由であるとのことでした。確かに1990年から1991年の単位製品当たりの生産額及び輸出額がいずれも増加していることから、設備投資によって品質の良い高付加価値製品の生産が可能となったことが窺えます。また、同工場では世界的にも有名な高級ブランド商品の受託加工を行っていますが、これは同工場



▲北京市シャツ工場：本事業資金を活用してミシン、服装デザイン用CADシステム、大型アイロン、生地切断機等が導入されました。

の製品品質が高いことの証左であると言えるでしょう。このように同工場の技術力は海外からも認められるまでに向上しており、生産コストが安いという中国の経済的優位性が維持されていけば、将来的にも外貨獲得に相応の貢献をしていくものと期待されます。

(表2) シャツ工場の生産額・輸出額の推移

| | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 |
|------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 生産額 (a) | 44,226 | 41,811 | 50,513 | 63,302 | 53,487 | 50,573 |
| (枚数) (b) | (500) | (501) | (550) | (663) | (602) | (360) |
| 輸出額 (c) | 2,522 | 22,952 | 24,823 | 32,942 | 33,340 | 36,363 |
| (枚数) (d) | (31) | (350) | (460) | (529) | (481) | (296) |
| 輸出比率 (c/a) | 5.7% | 54.9% | 49.1% | 52.0% | 62.3% | 72.9% |
| (枚数) (d/b) | (6.2%) | (69.9%) | (83.6%) | (79.8%) | (79.9%) | (82.2%) |

(単位：生産額→千人民元、枚数→万枚)

一広東省ジュース工場の場合一

この工場が立地している広東省番禺市（広州市から南に約20km）は、亜熱帯地方に属することから周辺地域は様々な果物の生産地（年産約40万トン）となっています。これらの果物の主な消費地は、地元以外では主として中国北部となっていますが輸送手段に問題があり、その多くを腐らせていました。そこで従来からジュースや薬品を製造していた食品工場は広州にある別の会社と合併で果物加工専門工場を設立し、今までは有効活用の出来なかった果物をジュースを始めとする保存のきく製品に加工して販売することを計画しました。本事業資金を活用して導入された設備は、ジュース消毒設備、ジャム製造設備等であり、これらの設備は1990年末に全て稼働を開始しています。社長の話では、果物を有効に利用するとの計画は

元々あったものの、仮に本事業の資金が導入出来なかった場合には、合弁会社の設立は実現しなかったとのことでした。

当該工場の設立に際して従業員は食品工場からの移籍に加えて、周辺地域からの新規雇用が行われました。新規雇用は全体の約40%とのことですから、約30名程度の新規就業機会を提供したことになります。導入された設備が年間を通じてフル稼働したのが未だ1991年だけであるため、生産動向についての判断は尚早であるものの、現時点では厳しい経営が続いています。社長の話によれば、この経営不振の理由は①新しく採用したジュースの容器が中国ではまだ馴染みがなく今一つ人気がないこと、②製造原価が高いために販売価格も高くなりざるを得ないことであり、特に前者については今後、販売ルートを確認するとともに宣伝活動に注力していくとのことでした。また、輸出についてはサンプル出荷が僅かに行われているだけで、未だ本格的な輸出は行われていません。これは同工場が新規設立工場であり未だ知名度が低いこと、確固たる販売ルートを持たないことが原

因であると言えます。同工場では積極的に見本市に出品するなどの努力を続け、1991年の広州市交易会では優良製品として受賞するまでになっていますが、当時は初冬であったこともあり、思うように引き合いがこなかったとのことでした。

当該工場の周辺地域には他にも4カ所のジュース工場がありますが、いずれも処理能力の小さな農村内工場です。従って当該工場が設立されたことによって周辺地域の果物処理能力が増大し、余った果物の有効活用が図れるようになったことは周辺の果樹栽培農家の所得向上に寄与するものであると言えます。このように、同工場の発展は外貨獲得のみならず、周辺地域農民の所得向上の観点からも大きな意義があると言えるでしょう。残念ながら現時点では、必ずしも当初予想していた程には効果が発現していませんが、製品自体は既にある程度の評価が成されていることから、今後は如何にしてマーケティング能力を強化していくかが同工場の課題であると言えるでしょう。

(評価時期：1992年10月)



▲広東省のガス湯沸器工場：ガス湯沸器の安全器具の生産設備を有さなかったことから、本事業資金を活用して、安全器具製造機械を導入しました。以前は輸入に依存していた安全器具が自主生産できるようになったことから、湯沸器の安定生産及び製造原価の低減が可能となり、本格的な輸出開始の基盤が出来ました。